ヴェルナー・ケーニク教授講演会

Prof. Dr. Werner König (Universität Augsburg): Spricht man in Norddeutschland ein besseres Hochdeutsch?

飯　嶋　一　泰

2007年3月29日，アウクスブルク大学教授ケーニク氏（ここではドゥーデン式の発音 [kø:nɪç] ではなくご本人の発音 [kø:nɪk] に従って表記する）による招待講演が行われた。ケーニク氏の研究分野は，ドイツ方言学・言語地理学を中心にドイツ語学のさまざまな領域にわたる。氏が主導する研究プロジェクトの中で特筆すべきは „Sprachatlas von Bayerisch-Schwaben“（Heidelberg 1995ff.）であり，その成果としてすでに分厚く重い13巻（分冊もカウントすると15巻）が刊行されている。また，ケーニク氏は過去四半世紀で15版を重ねた „dtv-Atlas zur deutschen Sprache“（München [1]1978）の著者としても広く名を知られている。今回の講演は「北ドイツではより良い標準ドイツ語が話されているか？」という，かなり挑発的なタイトルが付されているが，中身も期待にたがわず，氏の豊な研究成果と該博な知識が十分に活かされた大変興味深いものであった。

講演原稿に手を加えたものが，本号に特別寄稿として収録されているので，詳しい内容に関してはそちらを参照されたい。ここでは，ごく簡単に講演の骨子だけを述べると，北部ドイツの Hochdeutsch が南部のそれより「規範」に近いものと位置づけられるようになった歴史的経緯の概観，「規範」そのものの信憑性（と恣意性）に関する考察，そして各地域における「規範」からの逸脱事例に基づく具体的検証がなされた。最後のテーマについては，氏の著書 „Atlas zur Aussprache des Schriftdeutschen in der Bundesrepublik Deutschland“（2 Bde., Ismaning 1989）における調査結果と言語地図をもとに，ドイツ語教育の観点からも興味深い情報が提供された。たとえば，氏自身の名前にも含まれる語末の -ig を「規範」どおり [-ɪç] と発音しているのは旧西ドイツでは半数（北部）に過ぎず，残りの半数（南部）は [-ɪk] と言っている。この一事例を見ただけでも，「規範」とは何か，「良い」発音とは何か，と考えずにはいられない。

講演が春期休暇中に行われたにもかかわらず，学内外から約30名の研究者・院生・学生が来聴した。講演後の質疑応答も盛んになされ，予定していた90分は瞬く間に過ぎた。ケーニク氏は，私が1988年にアウクスブルク大学で講義を聴講させていただいたときと同様，多分に地域色のある（しかし十分に明快な）Hochdeutsch で話されたが，それはまさに氏の主張に即した行為であり，そのことによって今回の講演が一層の説得力を獲得したとことは言うまでもない。